

# 移住者レポート

北の大地で新しい暮らしを始めた4家族をご紹介します。  
移住のきっかけ、移住後の生活、夢は叶ったのか・・・。  
北海道暮らしへのヒントが必ず見つかるはずです。

## 小さなきっかけ

テレビに流れた北海道の映像を見て、夫婦ともに「いいなあ」と思いました。都会暮らしの反動か田舎に興味があり、将来子供を育てるなら空気のキレイな環境の良いところに住みたい、という理想もありました。そこで、「北海道暮らし」実現のための計画を始動しました。

横浜では小学校の教諭をしていましたが、「せっかくの北海道暮らし、何か北海道らしい仕事がしたい!」とインターネットで情報収集。いろいろ探してみたものの、なかなかピンとくる職業が見つからなかったとき、妻の「林業は?」の一言で問題は解決。「上手いかなかったら二人で居酒屋でも開こう」と気軽に考え、とにかく「北海道に住む!」を目標にしました。

## 【林業】

## いつか、職人技を極める。

山中 信樹さん／祈さん(神奈川県出身)

横浜市から黒松内町へ

黒松内町の就業支援 →P35

子育て支援→P40

## 林業という仕事

札幌で開催された「森林の仕事ガイダンス」で林業会社の面接を受け、黒松内町の会社に採用されました。実際の作業現場を見学して驚いたのは、働いている人々の年齢。みなさん60~70代で

したが、失敗すれば大怪我もするという伐倒をやすやすとこなしていました。それはまさに「職人技」。その姿のカッコよさ、林業という仕事に求められる技術の高さに感銘を受け、いつか自分も職人の仲間入りをしたいと思っています。

ただ、当面は季節雇用になるという点が問題でした。冬の間の仕事も探さなくてはなりません。周囲の方々からアドバイスをもらいながら十分な準備をして、来シーズンは夏・冬の生活設計をしっかりと組み立てたいです。

最初の職探しの時から、仕事に関する事やその他必要な情報を入



▲ご近所からいただいた夏野菜

手することは、簡単ではありませんでした。現地に来ないとわからないこと、知りえないことも多くあります。きめ細やかな情報の提供をお願いしたいですね。



▲気密性の高い町営団地



▲生後4か月の詩(うた)ちゃんと

## 子育て

黒松内町内では出産することができません。近隣の町にある大きな病院で出産し、定期健診も他の町まで行っています。でも、車を使えばそれほど遠くもないので、不便は感じていません。それよりも、産科の医師がゆっくり丁寧に話をしてくれたことや、誰とでも挨拶をかわせる人付き合いの気安さが、子育て環境に安心を与えてくれます。学校も子供の数が少ないので、教師がしっかりと子ども達と向き合えるような気がします。

地面がなくて、空も狭い都会ではなく、子供が森を自由に駆け回って成長できることが嬉しいです。

## 普段の暮らし

住まいは3DKの町営団地です。今のところストーブ1台で冬も乗り切っています。買い物は赤ちゃん用品なども必要なため、週に1度車で1時間ほど離れた近隣市に行っていますが、もちろん食料品などは町内でも購入できます。

横浜暮らしと比較して大きく違うことのひとつに「時間」があります。本当に時間がのんびりと流れて、夜9時にはすることがなくなるくらいです。早く寝るので睡眠時間もたっぷりあります。

## 夢

現在は子育て中の妻も、いずれは町内の施設で介護の仕事をしたと考えています。黒松内は福祉事業が充実しているので、仕事は見つかると思います。夫婦で働きながらも、のんびりとした生活がしたいです。夢は「自分達の手で家を建てること」。それができなかったとしても、地元の木材を使って子供の玩具を手作りしようと思っています。

## 山中家の移住プロセス

- 2011年 北海道に住もうと決意
- ↓
- 仕事探しを開始
- ↓
- 林業を選択
- ↓
- 林業フェア参加
- ↓
- 就職決定
- ↓
- 2012年4月 黒松内町に移住

## 食べ物をつくるということ

趣味だったロッククライミングの武者修行のため、カナダへ行ったときのことです。現地でお世話になっていた方から「カナダの食料自給率は100%以上、日本は40%以下。自国で食料を賄えないことに不安はないのか?」と聞かれました。「はっ」と目が覚めたような感じで、自分で畑を耕し、食べ物を作るということに魅力や、将来への希望を見出しました。大阪でしていた会社勤めより農家になる方が、明るい人生が待っている。高校生の時自転車一周し、故郷のように思っていた北海道で農業をしようと決意。

結婚後の2006年、北海道で田舎暮らしをスタートしました。

## 農家への道



▲エサは道産材料(麦、豆、魚粉)などを発酵させて手作りしている。この他、牧草や茹でたジャガイモなど。

最初は収入を得ながら就農について考えようと思い、酪農ヘルパーを始めました。酪農ヘルパーは、その名のとおり酪農家の人手不足を助ける仕事。酪農王国でもある北海道では働き口が多く、しかもヘルパーを派遣している団体に「就職」できます。

その後、やはり田畑がつくれる農家を始めたいと思い、農業研修先を探しました。ちょうど住み込みの研修生

を探していた士別市内の農家と出会い、2010年士別市へ。農業について学びながら、「鶏の平飼い※」でつながっている仲間とも知り合い、飼育方法を教えてもらいました。2012年、3.5haの土地を購入し、約200羽の鶏の飼育で独立。畑からはジャガイモやカボチャが、鶏からは1日約120個の採卵があります。今の収入源は宅配している卵。発送もしているので、遠くは九州にまでお客さんができました。

就農の際には農業委員に相談しながら土地を探しました。しかし、条件のいい土地はなかなか売りに出されません。地縁のない新規就農者でも土地探しは円滑に行えるよう、行政がもっと斡旋や資金援助などを支援してくれれば、若い世代の新規就農も促進されるのではないかと思います。

※鶏が自由に地面の上を歩き回れるようにした飼育方法。余分なストレスをかけないようにすることで、肉質や卵の質がよくなると考えられている。



▲崎原さんご夫婦

## 自然とは

もともと自然は大好きです。今も、家の周囲の森や小川で過ごす時間を楽しんでいます。ですが、永住して就農することになって初めて「大自然の怖さ」を感じるようになりました。野生動物が多いということは、ヒグマの出没やキタキツネ、イタチなどによる家畜への被害を招くことにもなります。大型の低気圧が接近して強風や大雨の予報が出ると、作物への被害が心配です。冬は大雪への対策も必要。一年を通して自然と闘っているようなものです。だからこそ自分に強さが必要。そして、ご近所との協力も欠かせません。



▲家の前には、地域の土地を守り続けている「地神」が。

## 近所は同志

病気の時も、悪天候の時も、ご近所は強い味方です。過疎化が進んでいる地域だということもあり、若者の就農はとても歓迎されて、たくさん助けてもらいました。しかし、いつまでも甘えてはいられません。田舎は持ちつ持たれつ。これからは自分達が返していく番です。共に自然と向き合い農業を担っていく同志として、近所のみなさんは大切な存在です。

## 【農業】

# 大自然=厳しい=助け合い

崎原 元貴さん(大阪府出身) / 敬子さん(愛媛県出身)

西日本から士別市へ

士別市の就農支援→P37

## 就農を目指す方へ

田舎暮らしもお金は必要です。農作物を換金するのも簡単ではありません。「しっかり稼ぐ」ことも真剣に考えなくては、就農は実現しないと思います。

つらいこともあるけれど、それ以上の充実感があります。卵を届けて回ると「美味しい卵ありがとう」と言ってもらえる。会社勤め時代には、これほど感謝の気持ちを受け取ることはありませんでした。自分が頑張った分はちゃんと戻ってくる、その繰り返しが「存在意義」や「新たなやる気」を与えてくれます。

卵と一緒に届けられる▶  
敬子さん手作りの「鶏ニュース」  
これを読むのが楽しみで卵を買う常連さんもある。



## 住みたい環境

排気ガスで洗濯物が黒くなる、ぜんそくの子供がたくさんいる、そんな環境での子育ては避けたいと思っていました。妻は子供のころ、夏休みに親類が多く住んでいる深川で過ごしたことがあり、その環境の素晴らしさを知っていました。景色も空気も水も綺麗。車でちょっと走ればいろいろなところにも行けて、自然の中で遊ぶことができる。いつか深川に住みたい、できればサラリーマンではなく起業で。そう考えて、一歩ずつ着実に準備を進めました。

## 【起業】

# 地域に愉しみを提供できる 洋菓子店を目指して

佐藤 良平さん / 薫子さん(大阪府出身)

大阪から深川市へ

深川市の起業支援 →P35  
子育て支援→P39

## 開店準備

4年間、妻の実家でも大阪の洋菓子店で修業。その後、深川に来てすぐに店の開店準備を始めました。当初は、行政がどんな情報をどこで公開しているのか、なかなか見つけられ



▲オススメはやはり手焼きのパウムクーヘン

なかつたり、せっかく見つけた情報が古かつたり、助成の申請場所がどこなのかわからなかつたり、と準備はやはり大変でした。しかし、市が「市街地商店街の空き店舗活用事業助成」を実施していることを知り、毎日駅前の空き店舗を見て回り、広めの駐車場もある今の場所に決めました(車社会の北海道では駐車場が必要)。そして、市からの助成を受け、店舗を改修。

現在は販売担当の妻と二人で、店を切り盛りしています。商店街に訪れるおじいちゃんおばあちゃんや、会社帰りの男性、家族連れなどお客様も徐々に増えています。洋菓子店は地元で愛されることが大切。時間はかかるかもしれませんが、しっかりと地域に根を下ろしたいと思っています。

サラリーマン時代、手に職をつけて深川市に住みたいと思う  
↓  
大阪の洋菓子店で修業  
↓  
2011年 移住関連フェアで「深川市ブース」へ  
↓  
ふかがわ1Dayツアーに参加  
↓  
2012年 深川市「移住体験モニター」参加  
↓  
2012年4月 深川市に移住  
↓  
助成制度を利用して店舗を準備  
↓  
2012年9月 開店

起業までの軌跡



▲長女(3歳)の美春ちゃんと

## 日常生活

子供がすぐに保育園に入所できたので、妻もスムーズに仕事が始まりました。共働きで使える時間も限られるので、除雪や庭の手入れの手間が省けるように、現在は3LDKのアパートに住んでいます。お店の定休日は日曜日だけ。市内で買い物や済ませたり、最近では娘が大好きな温泉に通ったりしています。周辺は果樹栽培も盛んなので、フルーツ狩りを楽しみがてら、お菓子に使える新鮮な地元食材探しもしています。

2人目を妊娠中の妻は、少し治療も必要で、車で1時間ほど離れた中核都市まで通院しています。深川市では国の助成とは別に、独自で高額治療に対する助成を実施していて、これは嬉しい発見でした。

## お店のこれから

今は倉庫になっている2階を改装して、イートインスペースを作る予定です。「お菓子とともに過ごす時間を楽しむ場所」として地域の方々が集まり、スタッフも雇用できるように、駅前の賑わい創出に貢献できれば...と思っています。

また、以前していたWEB制作の経験を活かし、ネットショップも始めます。道産材料をふんだんに使用したお菓子を、全国のみなさんに食べていただきたいです。



## 起業するために必要なこと

手に職をつけて深川で起業を目標にして、自分達にできる最大限を考えました。そこに向けて計画を立て、地ならしをしたおかげで不安は感じませんでした。

起業には資金が重要です。それと自身のメンタルの強さ、夫婦間のコンセンサスも。一緒に同じ目標に向かわないと実現できません。



洋菓子工房 年輪舎  
深川市2条8-24 TEL. 0164-22-3900  
10:00~18:00 日曜定休  
HP: http://www.baum-kuchen.com/

**日本に住むなら弟子屈で**

(孝之) 20代後半、次の住み家となる引越先を模索していた時に立ち寄った弟子屈町が気に入って、住み始めました。役場が紹介してくれた住宅に住み、町の人たちとも仲良くなった頃、牧羊について学びたいと思い、一度、ニュージーランドへ。そこで出会った現在の妻と弟子屈町に住むことを決意し、2008年に帰国、2009年結婚。周囲に美しい山並みが望め、広々とした大地に丘が連なり、川や湖などもある弟子屈町は本当に素敵なところですよ。

**【看護師&自営】****田舎で人と密着した生活を**

中野 孝之さん(広島県出身) / さやかさん(奈良県出身)

**西日本から弟子屈町へ**

弟子屈町の就業支援 →P39  
子育て支援 →P42

**田舎で看護師という仕事**

▲さやかさんの勤務先 摩周厚生病院

(さやか) 奈良で育ち、大学卒業後に大阪の大きな病院に勤務していました。そこでの看護の仕事はガンと闘い「積極的治療」を行っている患者さんへのケア。やりがいはい었지만、都会ではなく田舎で暮らしたいと考えるようになっていました。

弟子屈町に住むことになったときも、大きな病院で働こうと思いましたが、主人のすすめで現在の勤務先である町内の病院で働くことになりました。仕事は「介護」的な部分も多く、患者さん一人ひとりとゆとり時間を共有して、高齢者の方々の病後をサポートしています。以前からお年寄りと接するのが好きだったので、今の仕事のほうが自分に合っている気がします。また、この病院では子供たちが太鼓やバトンの演技を披露してくれたりする機会を作っており、地域との交流がしっかりとなされ、支えられている感じがします。

**仕事と子育て**

(さやか) 保育園に通う2歳の長女と4か月の長男がいて、今は育児休暇中です。復帰後も①子供が3歳までは夜勤免除、②子供が5歳までは時短勤務可、という制度を利用して仕事と子育てを両立する予定です。勤務先の病院は、現在、院内の夜間託児を検討しているほど、スタッフの子育てと仕事の両立に協力的です。子供ができたことによる看護師の辞職を減らそうという、病院側の努力がしっかりと伝わってきて、これからはもっと働きやすい環境が整うように思えます。



▲にこちゃん、平くんと

ただ、この町には小児科専門の医師がいません。出産はもちろん、子供の具合が悪い時は車で1時間ほど離れた近隣市にある病院まで行かなくてはなりません。急病や大ケガをしたときのたいへんさを考えると、普段の健康管理も大切になってきます。

**思ったら即行動**

(孝之) 今の仕事は自営のなんでも屋で、主な作業は酪農ヘルパーですが、他にも町の移動図書館のドライバーや個人輸入代行もしています。「興味をもったことはどんどん挑戦する」精神で、これからも様々な



▲移動図書館

な可能性を試してみたいです。私がいつも大切にしていることは自由であること。人生を楽しむためにも、家族と一緒に過ごすためにも、時間を自由に使って、暮らしに自由の幅を広げたいと思っています。弟子屈に来たときもそうでしたが、「いいな」と思ったら行動してみる。悩みすぎず行動することで、人生が拓けると思っています。

**人のありがたみ**

人口密度と知り合い密度は反比例する。たとえばその町に100人友達がいとします。人口100万人なら友達率1万分の1ですが、人口千人の町なら10分の1です。また圧倒的な自然の中(特に真冬)では、人々が助け合わないと生きていけないことを実感します。弟子屈



▲冬の日差しと薪ストーブは温もりがいっぱい

のように知り合い密度が高い町で暮らすことが、私たちにとっては心地よいです。

# 市町村情報

それぞれのマチが、  
移住や地域活性化を促進するために、  
いろいろなサポートをしています。

